

「がんばっていきましょい」～頑張るヒント～

校長 沖田浩史

保護者の皆様には、日頃から、本校の教育活動に対しまして、ひとかたならぬ御支援と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。松山東高校は、学習、部活動、学校行事全てにわたって、地域の負託や生徒・保護者の皆様の期待に応える教育の推進を目指し、伝統を継承しながら、さらなる高みへと発展を続けているところでございます。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

今年の秋、敷村良子さんの小説『がんばっていきましょい』がアニメ映画として全国公開されることが決まりました。この作品は、かつて実写版の映画やテレビドラマでも放映されており、今回も、あのみずみずしい青春劇がどのように繰り広げられるのか、楽しみにしているところです。

「がんばっていきましょい」が、本校生徒の気合い入れの言葉となっていることは、御存知の方も多いと思います。では、それを言葉だけで終わらせず、どのように頑張ればよいのか、そのヒントになることが、この春、新聞で紹介されていました。この話は、4月の始業式でお話したことですが、1年生や保護者の皆様には、初めてお伝えすることになります。2、3年生の皆さんも改めて思い出してみてください。

愛媛新聞では、この春、東京大学に合格した県下の10名以上の生徒から話を聞き、その内容をオンライン上で掲載しています。その中には、本校の卒業生も4人含まれています。その話の内容には共通していることがあり、それは、「自分の思いをきちんと言葉にできる」「自分の目標に向けて努力し続けられる」「自分に合った勉強方法を創意工夫する」ことだと、記事では紹介しています。

この秘訣は、全てのことに応用できることだと思います。一つめの「自分の思いをきちんと言葉にできるかどうか」は、進学面では「この大学に進学する」、学習面では「この苦手科目を克服する」「平均点何点以上を取る」、部活動の面では「インタハイに出場する」「県総体ベスト4で四国大会に出場する」、そのほか、学校行事や生活面での目標もあるでしょう。それを自分の思いとして、きちんと言葉にしているか。二つめ、その目標に向けて地道に愚直に努力し続けているか。三つめ、その目標を達成する方法を、多くの人の話を参考にしながら、自分で創意工夫して実践しているか。東高の先輩のアドバイスでもあります。新しい学年の第一歩として、ぜひ意識してみてください。

保護者の皆様、私たち教職員一同は、今年度の本校の指導目標「高く、広く、そして豊かに」のもと、将来の目標をしっかりと持ち、それに挑戦し、努力し、成長しようと頑張る生徒の皆さんを支えてまいります。改めまして、本校の教育活動に対する御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。新年度の挨拶とさせていただきます。